

国外実態調査報告書

テーマ : ロンドン研修
ゼミ名 : 山田 辰巳 ゼミ
調査日 : 2024年3月4日(月)~3月9日(土)
調査先 : 【イギリス】Deloitte・EY・MS Amlin (Lloyd's)・IASB
授業科目名 : 演習IV
参加学生数 : 8名(4年生)

調査の趣旨(目的)

ゼミ活動において、国際財務報告基準(IFRS 会計基準)について学んでいるが、IFRS 会計基準の設定主体であるIASB、IFRSを監査実務で利用している監査法人を訪ねて直接話を聞くことにより、IFRS 会計基準の設定の現場を体験し、さらに、その適用の際の問題点などについて理解を深めることが目的である。これによって、IFRSが世界基準として適用されていること改めて理解し、ゼミ活動で学んでいる内容をより現実のものとして実感することができる。また、損害保険リスクを取引するロイズ市場を訪問し、損害保険の取引の現場を実感するとともに、IFRS 第17号「保険契約」についての理解も深めることも目的としている。

調査結果

- IFRSを作成する主体であるIASBでは、鈴木理事及び長谷川ロアン氏をはじめとする現地スタッフから、基準を作成するうえで大変なこと、大切にしていることについて、聞き取りを行った。その結果、基準作りに際して、理論的な点や配慮しなければならない点、ボードメンバーの構成には意図がある点など、基準作りの流れや背景を理解することができた。
- Lloyd'sでは、Lloyd'sの役割について聞き取りを行った。Lloyd'sは、保険会社が組成するシンジケートが市場のように乱立しており、アンダーライター(保険リスクの引受者)とブローカー(保険リスクを回避したい「クライアント」の代理人)とが、リスクに関する契約の交渉を行う場を提供する場であることを理解し、具体的な仕組みやその歴史についても学んだ。特に、Lutine Bell(保険事故があった際に鳴らされる鐘)の来歴を聞き、Loss Book(毎日の保険事故の記録簿)を実見した。
- Deloitteでは、欧州でのサステナビリティ関連開示の適用状況について聞き取りを行った。最先端の開示基準や適用の難しさ、開示を通じた企業のサステナ意識について学ぶことができた。
- EYでは、日系企業グループで起こり得る実務、IFRS適用上の問題点、サステナビリティ開示について聞き取りを行った。日系企業グループが親会社の場合、英国基準(FRS102)、IFRS 会計基準、日本基準をそれぞれ理解し、調整をする必要があることを学んだ。また、IFRS適用に際して具体的な取引における問題点を聞き取り、議論し、IFRS 会計基準に対する理解を深めることができた。

5. 三井住友海上（MS Amlin）では、損害保険の歴史と IFRS17 号「保険契約」について聞き取りを行った。損害保険の種類は多岐に及び、最近では月保険という宇宙区間への保険も存在することや利益獲得のスキームについて理解することができた。

6. このほか、IASB の現地スタッフや大手監査法人の駐在員との夕食の機会を得、その場で、IFRS 会計基準の重要性や海外駐在の大変さ及び楽しさをご教示いただいた。これを通じて、彼らがいかにプライドを持った活動を行っているかを実感することができ、ゼミ生が人生を考え、海外を意識する良いとなった。

今回の訪問で、IFRS 会計基準を理解することが世界で活躍するためにどれほど重要であるか理解し、また、海外を目指し最先端の内容に触れることの重要性を学ぶことができた。いずれの訪問先についてもゼミ生それぞれが自らに不足している部分を肌で感じ、自身の目指す将来を実現するためにどのような努力が必要か具体的に考える力を身に着けることができた。

今後の社会人生活では、社会をよりよく知り、会計以外の分野にも視野を広げ、グローバル社会を意識した人材になっていこうと考えている。今回の調査は、そのようなきっかけを我々に提供してくれたと考えている。

